

様式4 令和3年度新座市学校評価システム 課題報告書

学校名	新座市立大和田小学校
実施日	令和4年1月18日

No.	質問項目	評価結果を踏まえた具体的な改善策	中間評価ポイント	評価 A/B/C/D
			本評価ポイント	評価 A/B/C/D
1	私は、自己有用感の高い学校づくりに取り組んでいる。	中間評価 ・学校公開日に道徳科の授業を保護者に公開する。 ・教室掲示物の充実を図る(道徳コーナーの設置)。 ・道徳ノートを学期に1回、自宅に持ち帰らせる。	3.16	B
		本評価 ・職員が作成する自己評価シートの目標欄に、有用感向上に関する具体的な目標(数値)を記載し各自取り組む。年度末にはアンケートを実施、検証し、PDCAサイクルを確立する。 ・個人面談や懇談会、連絡帳等を使い、児童の良さを共有し、学校・家庭の両輪で自己有用感の向上を図る。	3.34	B
2	私は、ゴール(身に付けさせたい力)を明確にし、主体的・協働的に課題解決を図る授業づくりに取り組んでいる。	中間評価 ・授業ごとのめあての確認と、振り返りをしっかり行う。 ・課題発見、解決の場をより多く設定していく。	3.24	B
		本評価 ・全教科で授業の「めあて」「評価」「ゴール」の一体化を意識し、児童自身で「めあて」をたてさせる。また、自分の言葉で授業の「ふりかえり」を書かせる。 ・タブレットを活用し、意見を交流させ、課題解決に取り組ませる。	3.29	B
3	私は、児童の『自分から』を大事にした主体的・協働的な教育活動に取り組んでいる。	中間評価 ・『自分から』の掲示物を、適宜活用し、頻繁に声がけする。 ・児童が自ら気づき、行動するまで待つ。そして、行動できたらほめる。 ・毎月記入している生活カードの項目に「自ら」の項目を追加する。	3.24	B
		本評価 ・『自分から』の具体的なイメージを児童と共有し、キャッチフレーズ『自分から にこにこ きびきび すらすらはきはき』とともに繰り返し指導する。 ・コロナ対策をしながら、運動会や縦割り活動など、児童が主体的に活動できる場をできる限り準備していく。	3.23	B
総 評				
	中間評価	・感染症対策のため、児童たちが授業で交流する場面や活動する場面を設定することが難しかった。また、休み時間に校庭を利用できる学年が限られたり、体育集会を1学年ごとにしかでなかったり、体力向上面で課題がある。このような中でもできる方法を考えて、実践を増やしていく。 ・大規模校のため、共通理解・共通行動に基づいて指導することの難しさがある。職員同士のコミュニケーションを通じ、さらに共通理解・共通行動を意識しながら、生徒指導部を中心とした指導体制を進めていく。	3.33	
	本評価	・ブロック別の運動会や1年生の移動動物園、5年生の十文字学園女子大学生を招いての歌唱鑑賞、3年生の琴体験等コロナ禍において様々な制約を受けながらも、管理職を中心に職員が一丸となってアイデアを出し合い、工夫して実践し、主体性や協働性の育成、自己有用感の向上に努めた。 ・1人1台のタブレットを大いに活用し、授業中に画面上で意見を交流したり、まとめたり、スライドを作成し協働的な学びを充実させた。また、アプリケーションソフトを使い、計算や漢字の基礎基本に取り組み、学習の個別最適化に努めた。		